

# 現代漢語の“NP+在+場所名詞句+V 着”中の動詞類型と名詞句の解釈について

須藤 秀樹

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

## はじめに

現代漢語の“着”・“在”は、一見等しく進行を表すのであるが、一つの言語体系の中に同じ機能範疇を表す2つの形態素が存在するとは考えづらい。本研究では、讃井(2000)の知見に従い、“在”は、動詞の表す事象を前景化する統語機能を持ち、これに対して“着”は動詞の表す事象を背景化する統語機能をもつと考える。

まず、“在”と“着”とを対比することで、“着”の文法機能を明らかにした後、若干の動詞分類の述語を導入し、動詞の自他の対立を前提としない語彙アスペクトに拠って現代漢語動詞を分類した須藤(2005)の動詞分類を用いて、“NP+在+場所名詞句+V 着”という語環境中の動詞類型とNP及び場所名詞句の解釈との関係について述べる。

## 1. “在”の前景化と“着”の背景化：“着”の従属性(subordination)

『言語学大辞典 術語編』(1996)の「進行相」の解説の中で、中国語の「進行相」を表す形態として動詞に“V 着～(呢)”を接尾させた形式と“着”を用いずに動詞の直前に“在”を置いた形態と文末に“呢”を置く形式の3つが挙げられている<sup>1</sup>。

(1) 念 着 书 呢。 「本を読んでいる」  
read DUR book SP

(2) 在 念 书 呢。 「本を読んでいる」  
PROG read book SP

---

<sup>1</sup> 以下の意味で略号を用いる

BA 使役表現を形成する介詞

CL 量詞

DUR 背景化された動作・行為を表す接尾辞、持続相を表す

PERF 完了相を表す接尾辞

LOC 場所名詞句

PROG 進行相を表す時間副詞

SP 文末助詞

(3) 念 书 呢。 「本を読んでいる」

read book SP

本節では、これら現代漢語において「進行相」を表すとされる“在”と“着”について先行研究で述べられている主張を確認していくこととする。

### 1-1. “着”の従属性 (subordination)

現代漢語で“着”が接尾した動詞一つだけの文は「文が終止せず、何かが足りない」感じがする文である。たとえば、

(4) 等 着... 「待ちながら...」

wait DUR

こうした語感は、“着”の従属性 (subordination) に起因する。

(5) 他 忙 着 倒 茶... 「彼はいそがしくお茶をいれながら...」

he busy DUR pour tea

この従属性という概念は、Chu (1987) では統語機能 (syntactic function) として説明している<sup>2</sup>。刘一之 (1999) でも、同様に以下のような文法性の判断の違いがあるとする。

(6) \*我们 说 着 话。 「我々が話している。」

we speak DUR words

(7) \*下 着 雨。 「雨が降っている。」

down DUR rain

しかし次のように後ろに文が続く場合には、適格な文となる。

(8) 我们 说 着 话，天 就 黑 下来 了。

we speak DUR words sky then black down come SP

「我々が話していると、すぐに日が暮れてきた。」

(9) 天 这么 黑，下 着 雨，我 看 就 别 去 了。

sky this black down DUR rain I see then do not go SP

<sup>2</sup> Chu(1987)では「The -zhe therefore only serves the syntactic function of subordinating the V-zhe structure to the main predicate.」と述べている。

「空がこんなに暗く、雨が降っているし、行くのをやめた。」

これに対して“在”が前置した動詞が一つだけの文では「文が終止せず、何か足りない」感じがする文ということはない。

(10) 我 在 等 人。(讀井(2000)の例文)

I PROG wait person

「私は人を待っています。」

### 1-2. “在”の前景化と“着”の背景化

讀井(2000)では、“在”と“着”について、“在”は「動作主および動作・状態のタイプの存在を**前景化**」し、“着”は「別に主張したい事柄があって、その事柄の**背景**にある事実をありのままに記述する」表現である、と主張する<sup>3</sup>。たとえば、典型的に「今、何をしていますのですか?」という質問には、動作を前景化する“在”を用いて答える。たとえば、

(11) 我 在 等 人。(讀井(2000)の例文)

I PROG wait person

「私は人を待っています。」

これに対して“着”は

(12) 他 喝 着 酒 看 电视。

he drink DUR alcohol watch TV

「彼は酒を飲みながらテレビを見ていた。」

のように「テレビを見る」という動作の背景で「酒を飲む」ことが行われていることを表している。

こうした現代漢語の“在”の前景化は“着”の背景化に対して述べたものであり、“着”の背景化という機能は“着”の従属性に起因するのである。

<sup>3</sup> “V着”が統語機能として持つ従属性は、共起する副詞の違いにも表れる。沢田(1983)では、“V着”と共起する副詞と“在V”と共起する副詞との違いについて以下のような指摘をしている。

“V着”と共起する副詞は、動詞のあり方、方式を表示する役割を担っているが、これに対して、“在V”と共起する“到底、究竟、居然、简直、分明、明明、真的”は、動作のあり方、方式を表示する役割を担っていない。

“V着”の前に置かれる種々の状況語が動作のあり方と緊密に関係するのに対して、“在V”の前に置かれる副詞は文全体の主体的な語気に関わるのである。

## 2. 現代漢語の動詞分類

本研究で「語彙アスペクト」という術語は, Dowty (1972) の “verb aspect” と同じ意味で用いる。Comrie (1976) では, いろいろな範疇の語に固有のアスペクト性があり, 文の中で, それらが相互に作用しあうと考えている。本研究は, 文のアスペクト性を検証するには, 動詞の語彙アスペクトを明らかにする必要があると考え, 研究を進めていく。

語彙アスペクトに拠る動詞分類を行う研究では, 動詞と進行相を表す形態素との共起関係の観察から動詞を分類することが多い。本稿でも現代漢語の進行相を表す形態素 “着”・“在” と動詞との共起関係を用いて動詞を分類する。

Vendler (1967) では, 英語の動詞を分類する際に「過程 (process)」と「終結点 (terminal point)」という 2 つの属性で動詞を 4 つに分類している。Vendler (1967) で, 英語の動詞を分類する際に, 進行相を表す形態 “~ing” との共起関係から, 英語の動詞を 4 つに分類し, それぞれに「過程 process」と「終結点 terminal point」という 2 つの意味特徴を用いて, 記述している。

	process	terminal point	例
state	-	-	know, love, desire
achievement	-	+	reach a summit, find, recognize, lose, die
activity	+	-	run, work, write, push a cart
accomplishment	+	+	draw a circle, write a letter, run a mile

表 1: Vendler (1967) の英語動詞の四分類

須藤 (2005) では, 動詞の語彙的アスペクトに注目して, 図 1 中に示したような, 「過程 process」と「終結点 terminal point」という 2 つの意味特徴を用いて, 現代漢語動詞の分類を行った。

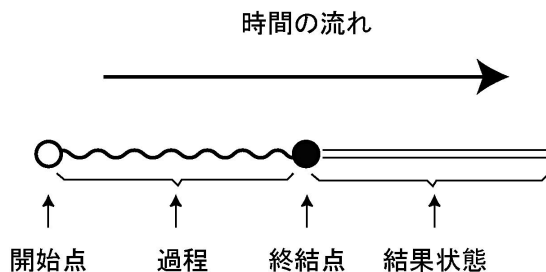


図 1: 動詞の内的時間構造モデル

須藤 (2005) では、Vendler (1967) で提出された「過程」と「終結点」という属性によって分類を行った。まず、「過程」属性に拠って、現代漢語動詞を2つに分類し、進行相を表す“在”と“着”と動詞との共起関係から過程動詞と非過程動詞とに分類した。過程動詞とは、“在”と“着”と共起可能な動詞類であり、動詞の表す動作に「過程」があり、これに対して、非過程動詞は“在”と“着”と共起できない動詞類であり、その動作に「過程」はないのである。

「過程」属性の有無で行った動詞を2つに分類した後、「終結点」属性の有無によって下位分類を行う。非過程動詞類を状態動詞 (state) と達成動詞 (achievement) とに分類し、過程動詞を動作動詞 (activity) と完成動詞 (accomplish) とに下位分類する。

須藤 (2004a) で主張したように、非過程動詞の中で、達成動詞 (achievement) は関係節中に、完了相 (perfective) を表す接尾辞“了”を伴って生起可能である。これに対して状態動詞 (state) は生起することができない。

須藤 (2004b) で主張したように、非過程動詞のうちで、完成動詞 (accomplish) は、“V+在+LOC”という語環境に生起可能であり、これに対して活動動詞 (activity) は生起することができない。

	process	terminal point	例
状態 (state)	-	-	知道「知る」、懂「分かる」、明白「理解する」
達成 (achievement)	-	+	死「死ぬ」、丢「失う」、断「切れる」
活動 (activity)	+	-	看「見る」、听「聞く」、吃「食べる」
完成 (accomplishment)	+	+	穿「着る」、脱「脱ぐ」、挂「掛ける」

表 2: 現代漢語動詞の四分類

## 2-1. 現代漢語動詞の過程 (process)

現代漢語の研究には膨大な先行研究が存在し、動詞分類に関して、有意義な一般化に成功したものが多く含まれる。現代漢語動詞において、「過程 process」という意味特徴を確認可能な文法現象として、動詞と時間量を表す時量賓語とを組み合わせた場合に、動詞の類型によって、時量賓語によって表される時間量の解釈が異なる現象がある。このことに注目した马庆株 (1981) では、「過程」を持たない Va と「過程」を持つ Vb という2つの動詞のタイプを提示する。马庆株 (1981) では、Vb 動詞を時量賓語の表す意味により、さらに、Vb1 (-完成)、Vb21 (+完成、-状態)、Vb22 (+完成、+状態) というように分類するが、本稿では「過程」属性の有無に拠って、まず動詞を過程動詞 (Vb) と非過程動詞 (Va) とに分類する。

意味特徴	Va “死”	Vb		
		Vb1 “等”	Vb2	
			Vb21 “看”	Vb22 “摆”
持続	-	+	+	+
完成	+	-	+	+
状態		-	-	+

表 3: 马庆株 (1981) の現代漢語動詞の四分類

马庆株 (1981) が指摘するように、動詞 (V) と時量賓語 (T) が組み合わせられた場合、Va 動詞は、次の語環境には生起不可能である。これに対して Vb 動詞は、生起可能であり、T は動作が継続する時間量を表す。

(13) \*父亲 死 三天。  
father Va T

(14) 这本书 看 三天。  
this book Vb T

「(この本は) 三日間読んでいる。」(T = 動作が継続する時間量)

例文 (1) の“死”は、持続することが不可能な動作・行為を表す Va 動詞であり、例文 (2) の“看”という動詞は持続可能な動作を表す Vb 動詞である。马庆株 (1981) では、Va 動詞を非持続性動詞、Vb 動詞を持続性動詞というように名付けているが、本稿では、前者を非過程動詞、後者を過程動詞として捉えなおす。

## 2-2. 現代漢語動詞の終結点 (terminal point)

現代漢語動詞が終結点の有無は、分析が難しい問題である。

本稿では、“NP+在+LOC+V 着”が文末に置かれた場合、すなわち“NP+在+LOC+V 着。”を研究の対象とする。これは終結点の関わりによる。

Vender (1967) で提示された動作の過程と終結点を併せ持つ accomplish verb という動詞類型は、Tai (1984) では、単独の現代漢語動詞には存在しないと述べ、英語の accomplish verb に相当する動詞はすべて「結果補語」を伴った動詞複合構造 (verb compound) で表されるとする。英語の典型的な accomplish verb である ‘to kill’ という動作は、動作の対象が死ぬことを含意する。しかしこれに対して ‘to kill’ に相当する現代漢語の“杀”は、動作の対象が死ぬことを含意しないことを指摘する。

(15) \*I killed John but he didn't die.

(16) 张三 杀 了 李四 两次, 李四 都 没 死。

ZhangSan kill PERF Lisi two times Lisi all not die

「張三は李四を2回殺そうと試みたが、李四は死ななかつた。」

現代漢語の“杀”に終結点を与えるには、「結果補語」“死”を伴った動詞複合構造 (verb compound) にしなければならない。

(17) 张三 杀-死 了 李四 两次, 李四 都 没 死。

ZhangSan kill-die PERF Lisi two times Lisi all not die

「\*張三は李四を2回殺したが、李四は死ななかつた。」

马庆株 (1981) では、動作の内部における終結点の有無を、その動作を表す動詞が以下のような語環境に生起可能か否かによって判断可能であり、それにより、過程動詞 (Vb) をさらに Vb1 動詞と Vb2 動詞とに分類する。

(18) 是 T 前 V 完的。 「T 前に V (し) 終わったのだ」

(19) \*是 三天 前 等 完 的。 「三日前に待ち終わったのだ」

be T before Vb1 finish NOM

(20) 是 三天 前 看 完 的。 「三日前に読み終わったのだ」

be T before Vb2 finish NOM

しかし、中川 (1979) では马庆株 (1981) で、終結点がある動詞として挙げられている「説・看」について以下のように述べる。

「説・看・走」のような動詞が意味するところの行為には、厳密な意味での『終了』は存在しない、あるいは行為の持続と中断のみであり、いつでも再開可能なのである。

...

中国語において「説」のような動詞の意味するところの動作は、それが前段の動作として、後段の動作に向けて一応終結されるか、「-好、-完」のような結果補語がつくか、あるいは目的語になる関与者つまり対象の側からの量的限定 (数量限定語) を伴った目的語や動量詞を共起させる。いずれにしろ『限定された終了』である。

中川 (1979) で指摘されているように、以下の2つの種類がある。

- (a.) 前段の動作として、後段の動作に向けて終結される。
- (b.) 結果補語がつくか、あるいは目的語になる関与者つまり対象の側からの量的限定(数量限定語)を伴った目的語や動量詞を共起させる

すなわち、現代漢語においては、終結点は、(a)のように意味論的に含意される場合と、(b)のように統語的手段によって表される場合とがあるのである。

本研究では、(a)のように意味論的に含意される終結点や、(b)のように統語的手段によって表される終結点を研究の対象から除外し、動詞の表す事象の時間的構造に内在する終結点のみを観察するために、“NP+在+LOC+V 着”が文末に置かれた場合、すなわち“NP+在+LOC+V 着。”という形式を研究の対象とする。

今回使用したコーパスは、『当代北京口语语料』(以下『当代』)で、電子データ化されている1816478字のコーパスを用いた。このコーパスは、職業、年齢、性別など多様な北京話話者が自ら半生を独白するという形式のコーパスである。このコーパスから“NP+在+LOC+V 着。”を含む172個の文を得た。ここでは「,」,「。」,「?」で終わっているものを1つの文とした。

### 3. “NP+在+場所名詞句+V 着”中の動詞類型と名詞句の解釈

以下、“NP+在+LOC+V 着”という語環境中の動詞類型とNPとLOCの解釈との関係について述べる。

#### 3-1. 動詞が活動動詞の場合

活動動詞の場合は、動詞の表す事象に過程があり、この場合のLOCの解釈は動作が行われる場所を表す。これに対して、完成動詞の場合は、LOCの解釈は動作完了後の結果状態が付着する場所を表すこともできる(後述)。

コーパスから得られた活動動詞は、以下の12個の動詞である。

- (21) “吃” eat, “等” wait, “盯” stare, “工作” work, “管” manage, “哄” bawl, “开” drive, “看” watch, “闷” stuffy, “推” push, “歇” rest, “养活” bring up.
- (22) 在 门口儿 等 着, …  
at LOC wait DUR  
「入り口で待っていると, …」

場所名詞句“门口儿”「入り口」は“等”「待つ」という動作が行われる場所を表している。

活動動詞が“NP+在+LOC+V 着”に用いられた場合、NPは、そのVが表す動作の主体である。例えば、



(23) 我记得是。等了半个钟头。…，出不去车。就那 在 车上 等 着。  
at car above wait DUR

「私が覚えているのは、30分ほど待った。…，車が出ずに、車上で待っていた。」

(24) 我说老婆子有没有这个能力，因为她没工作， 在 家里 看 着  
at home inside watch DUR

我 那 小 孙 女 儿 ， …

I that grand daughter

「私は女房にこうした能力があるのかと言った、彼女には仕事がなかったから、家で孫娘を見ながら…」

(23) の“等”「待つ」を行う主体は“我”「わたし」であり、(24) の“看”「見る」を行う主体は“老婆子”「女房」である。これに対して、完成動詞の場合には、NPは動詞の表す動作を行う主体ではなく、動作の対象、あるいは受け手であることが多い(後述)。

活動動詞の中でも様態を表す動詞類は“在”との共起の仕方が、他の活動動詞と比較して、特殊である。様態を表す動詞の場合には、“在”の置かれる位置は、動詞の前でも後ろでも文の表す命題的な意味は変わらない<sup>4</sup>。たとえば、

(24) 小李 在 沙发上 坐 着。 「李くんはソファに座っている。」  
little Li at sofa above sit DUR

(25) 小李 坐 在 沙发上。 「同上」  
little Li sit at sofa above

これに対して、様態を表すとは考えられない、大多数の活動動詞は、“在”を後置することができない。たとえば、

(26) \*饺子 吃 在 五道口食堂里。  
chaotzu eat at Wudaokou restaurant

(27) \*我 等 在 办公室里。  
I wait at office inside

こうした特徴を持つ様態を表す活動動詞は、コーパスから12個得られた。

<sup>4</sup> 呂叔湘(1999)では、「出産・発生・産出・居留」の場所を指す“在…”は動詞の前後どちらにおいてもよいことを指摘している。

- (28) “扒” crawl, “病” sick, “长” grow, “待” stay, “呆” stay, “跟” follow, “跪” kneel, “躺” lie down, “站” stand up, “住” live, “转” turn, “坐” sit.

荒川（1985）では、様態を表す動詞を「静態動詞」と呼び、この動詞類型に見られる意味特徴を「静態性」として、以下のように述べる。

日本語の立つ、スワル…の動詞は、変化や過程に重点のある動詞であるが、中国語の“站”類は、変化や過程よりも状態（“站”なら立ッテイルという状態）を表すのがその基本的な意味である。このことはつまり、“站”等々は、立ッテイルという意味の動詞と“站”との結合であって、立ッタ結果の状態の持続と考えるなくともよいということである。

このことは、須藤（2004）で活動動詞とした挙げた動詞群に観察される文法現象によって説明可能である。須藤（2004）では、“标语贴在墙上。”「スローガンが壁に貼られている」のような動詞（V）の直後に“在”が置かれ、さらにその直後に場所名詞句（LOC）が置かれるような“NP+V+在+LOC”という形をとる動詞を、“把”との共起関係に基づいて分析した。

活動動詞の中で、“V+在+LOC”の形をとる動詞は、“NP+V+在+LOC”を“把 NP+V+在+LOC”という形に変換できない。たとえば、

- (29) 同学们 站 在 那儿。 「生徒たちはあそこに立っている。」  
students stand at that place

- (30) \*张老师 把 同学 站 在 门口。「張先生は学生を入りに立たせた。」  
Zhang teacher BA student stand at entrance

これに対して完成動詞は、“NP+V+在+LOC”を“把 NP+V+在+LOC”という形に変換可能である。たとえば、

- (31) 标语 贴 在 墙上。 「スローガンが壁に貼られている。」  
slogan paste at wall above

- (32) 张老师 把 标语 贴 在 墙上。 「張先生はスローガンを壁に貼った。」  
Zhang teacher BA slogan paste at wall above

様態を表す活動動詞の場合には、“V+在+LOC”という形式をしていても、Vの表す動作を

通じて、ある事物を LOC に位置させることを表しているのではないのである。したがって、“V+在+LOC”に“把”を伴った語環境に成立することはできない。これらの動詞がこうした語環境に成立しないのは、V の表す動作が、ある事物を LOC に位置させる原因とはなり得ないからである。これに対して、完成動詞の場合には、“V+在+LOC”の形式は、V の表す動作を通じて、ある事物を LOC に位置させることを表しているのので、“把+NP+V+在+LOC”という形に変換可能なのである。

### 3-2. 動詞が完成動詞の場合

完成動詞の場合は、動詞の表す事象に過程があり、また、動作に終結点がある。“NP+在+LOC+V 着”中の NP が、V という動作の結果、LOC の表す場所に存在し、その場所に止まっていることを表す。言い換えれば、この場合の LOC の解釈は動作完了後の結果状態が付着する場所を表す。コーパスから得られた活動動詞は、以下の 12 個の動詞である。

- (33) “摆” display, “穿” wear, “带” lead, “搁” place, “画” draw, “挤” crowd, “靠” lean on, “露” reveal, “晒” sun, “贴” paste, “停” stop, “装” load.

“NP+在+LOC+V 着”中の NP は、「錠前」のように具体的な事物でも、「価格」のような抽象的な事物でもかまわない。たとえば、

- (34) 那 锁 吧, 在 窗台儿上 搁 着 呢。  
that lock SP at window sill place DUR SP  
「その錠前は、窓台に置かれていた。」

- (35) 这价钱 在 那儿 摆 着 哪!  
this price at that display DUR SP  
「その高値はそこにとどまっている！」

これらの例文の NP は、動詞の表す動作を行う主体ではなく、動作の対象、あるいは受け手である。

完成動詞は、二局面動詞であり、このタイプの動詞の場合、前段の動作の過程における動作が行われる場所を表すとも論理的に考えられる。しかし、“NP+在+LOC+V 着”中の V が完成動詞の場合、今回調べたコーパス中に、LOC が動作の行われる場所を表す例文は見つからなかった。これは“着”の統語機能の従属性によると考えられる。“着”の従属性とは、次のような談話中に確認される。

- (36) 把退休老人呢, 全都进行参观了。所以这样儿呢, 退休老人游逛完了之后, 心里挺满意。呢它植物园里头啊, 有各国咱们的那个各种的花儿, 还有总理的特别喜欢的吊兰

等等，全都在那儿摆着，所以老人心里挺高兴，嗯。

「引退した老人をみな参観を行ったの。だからこのようにして，引退した老人たちは遊覧が終わった後，とっても満足したわ。植物園の中には各国の我々のいろいろな花が，周恩来首相が好きなシンビディウムなどなども，全てそこに並べられていたの。だから老人たちはとても喜んだのよ。」

例文 (36) は以下のような3つの事象から成るだろう。

事象1「引退した老人を遊覧に連れて行った」

事象2「老人たちはとても喜んだ」

事象3「植物園にはいろいろな花が並べられていた」

この文章の主要な事象 (main event) は，事象1「退職した老人を植物園に遊覧に連れ行き」，事象2「老人たちはとても喜んだ」ということである。事象1と事象2の間には，直接的な時間軸上の関係があり，また直接的な原因と結果の関係がある。これに対して，事象3「植物園にはいろいろな花が置かれていた」は，事象1と事象2を結ぶ時系列中とは無関係に存在する事象である。原因と結果も直接的と言うよりは間接的である。

“NP+在+LOC+V 着”中のVが完成動詞の場合，動詞の語彙アスペクトの面から見れば，LOCが動作の行われる場所を表すことも可能であるはずであるが，動詞接尾辞“着”によって，完成動詞の表す事象が，他の事象に対して副次的であることが示され，背景化されている。背景化された事象中には，動作の進行を表すことは一般的ではない<sup>5</sup>。そのために，LOCの解釈は動作完了後の結果状態が付着する場所を表すことが多いのである。

#### 4. 結論

“NP+在+場所名詞句+V 着”という環境中では，Vの類型によって，NPと場所名詞句との解釈に違いがあることをみた。

Vが活動動詞であれば，NPはVの表す動作の主体であり，これに対して，完成動詞であれば，Vの表す動作の対象，受け手であった。また場所名詞句の解釈も活動動詞と完成動詞の違いに対応して，それぞれ，活動動詞の場合には，動作の行われている場所を表し，完成動詞の場合には，動作完了後の結果状態が存在する場所を表すのであった。

様態を表す動詞は，活動動詞の中の下位分類と考えられる。“坐”「座っている」，“站”「立っている」などの動詞は，その動作が表す事象の中で，動作の主体が，当該動詞の表す様態で存在していることを表し，その動作に起因して別の事象が引き起こされるとは考え

<sup>5</sup> Hopper(1979)(p. 215)

In the backgrounded part, one verb is iterative (*passed through*), ... must be stative. Foregrounded clauses generally refer to events which are dynamic and active. Furthermore, the sequencing of these clauses usually imposes the constraint that a foregrounded event is contingent on the completion of a prior event. The tendency for foregrounded events to have punctual verbs follows as a probability from these two factors, but it is by no means a requirement.

づらい。そのために“NP+把+V+在+LOC”という環境には成立しないのである。

NP と場所名詞句の解釈の違いは、動詞の語彙アスペクトに依存している。活動動詞とは、語彙アスペクトからみれば、「過程」が有り、「終結点」が無い動詞類型であり、これに対して完成動詞は、「過程」と「終結点」を併せ持つ動詞類型であり、二局面動詞である。

完成動詞が“NP+在+場所名詞句+V 着”という語環境中に生じた場合、NP と場所名詞句の解釈も両義的であるはずであるが、「背景化」という“着”の統語的機能によって、NP は V の表す動作の対象、受け手として解釈されるのが一般的であり、場所名詞句は、動作完了後の結果状態が存在する場所を表すことが多いのである。

三宅 (2004) において、二局面動詞が“着”を伴った場合には、静態義を表す強い傾向を指摘している。二局面動詞“写”「書いている (動態義)」,「書いてある」(静態義) の分布は口語資料では前者が 3 個、後者が 20 個である。同様に書記資料においても前者が 4 個、後者が 20 個であったと述べられている。さらに二局面動詞“穿”「着ている (動態義, 静態義)」では、口語資料、書記資料から収集した 266 個の“穿着”のうちで、動態義を表す例文は一つもなかったことを述べている。

一つの動詞によって、動作の過程とその動作に起因する結果状態という二局面を表しうる動詞が、こうした強い傾向を持つことは、“着”の持つ背景化機能が関与的である。

## 参考文献

- CHEN ChuangYu 1978: Aspectual Features of the Verb and the Relative Positions of the LOCatives, *Journal of Chinese Linguistics* 6.
- CHU Chauncey C 1987: The semantics, syntax and pragmatics of the verbal suffix zhe, *Journal of the Chinese Language Teachers Association* 22.
- COMRIE, B. 1976: *Aspect*, Cambridge University Press.
- HOPPER Paul J 1979: Aspect and Foregrounding in Discourse, Givon (eds.), *Syntax and Semantics* Vol.12: New York Academic Press.
- DOWTY, D.R. 1972: *Studies in the logic of verb aspect and time reference in English*, Studies in Linguistics 1. Dept. of Linguistics, University of Texas at Austin.
- TAI, James H.-Y. 1984: Verbs and Times in Chinese: Vendler's four categories. David Testen, Veena Mishra, and Joseph Drogo (eds.), *Papers from the Parasession on Lexical Semantics*, Chicago Linguistic Society.
- TENG Shou-hsin 1979: 「Progressive Aspect in Chinese」, 『アジア・アフリカ語の計数研究』第 11 号.
- VENDLER, Z., 1967: Verbs and Times, *Linguistics in Philosophy*, Cornell University Press, Ithaca, New York.
- 荒川清秀 1985: 「“着”と動詞の類」, 『中国語』No.306.
- 戴耀晶 1991: 「现代汉语持续体“着”的语法分析」, 邵敬敏主編『九十年代的语法思考』,

- 北京语言学院出版社.
- 方梅 2000: 「从 V “着” 看汉语不完全体的功能特征」, 中国语文杂志社编 『语法研究和探索(九)』, 商务印书馆.
- 伊原大策 1982: 「進行を表す「在」について」, 『中国語学』229号.
- 木村英樹 1981: 「「付着」の“着 zhe”と「消失」の“了 le”」, 『中国語』No.258.
- 木村英樹 1997: 「“变化”和“动作”」, 余霏芹他編『橋本萬太郎紀念中国語学論集』, 内山書店.
- 木村英樹 1982: 「中国語」講座日本語学11『外国語との対照』, 明治書院.
- 河野六郎編 1996: 『言語学大辞典 第6巻 術語編』, 三省堂.
- 梁紅 1999: 「中国語の結果相 (resultative) とパーフェクト (perfect) —— 「互換可能」な“V着”と“V了”を中心に——」, 『中国語学』246号.
- 李临定 1985: 「动词的动态功能和静态功能」, 『汉语学习』第1期.
- 刘宁生 1985: 「论“着”及其相关的两个动态范畴」, 『语言研究』第2期.
- 刘一之 1999: 「北京口语中的“着”」, 北京大学中文系《语言学论丛》编委会编『语言学论丛(第二十二辑)』, 商务印书馆.
- 刘月华等 2001: 『实用现代汉语语法(增订本)』, 商务印书馆.
- 盧濤 1997: 「「在大阪住」と「住在大阪」」, 大河内康憲教授退官記念論文集刊行会『大河内康憲教授退官記念 中国語学論文集』, 東方書店.
- 吕叔湘主編 1999: 『现代汉语八百词(增订本)』, 商务印书馆.
- 马庆株 1981: 「时量宾语和动词的类」, 『中国语文』第2期.
- 松本克己 1991: 「主語について」, 『言語研究』100号.
- 峰岸真琴 2002: 「形態類型論の形式モデル化」, 『アジア・アフリカ言語文化研究』64号.
- 三宅登之 1994: 「关于“着”表示的语法意义」, 『県立新潟女子短期大学研究紀要』No.31.
- 三宅登之 2004: 「いわゆる動態義の“V着”の使用環境について」, 日中対照言語学会第12回大会 12月23日 東洋大学 発表レジュメ.
- 中川正之 1979: 「「着 -zhe」と「了 -le」」『アジア研究』創刊号.
- 太田辰夫 1947: 「北京語における“進行”と“持続”」『中国語雑誌』2巻2号・3号.
- 佐々木勲人 1997: 「中国語における使役と受動の曖昧性」, 『ヴォイスに関する比較言語学的研究』, 三修社.
- 讚井唯允 2000: 「“在等”“等着”“在等着” —— “在”と“着”の文法的意味と語用論」, 『人文学報』第311号.
- 沢田啓二 1983: 「“在”小考 ---共起する成分との関連から ---」『伊地智善継・辻本春彦両教授退官記念中国語学・文学論集』, 東方書店.
- 須藤秀樹 1999: 「日中アスペクト論序説--中国語“～起来”の表わす意味について--」麗澤大学中国研究会『中国研究』第7号.
- 須藤秀樹 2004a: 「現代漢語の關係節“V的N”中に“了”が共起する条件について ---動詞の語彙的アスペクトの観点から---」『大学院博士後期課程論叢 言語・地域文化研究』No.10, 東京外国語大学大学院.

- 須藤秀樹 2004b: 「現代北京語の動詞分類と“把”と“在”の共起関係について」 敦賀陽一郎, 黒澤直俊, 浦田和幸 (編) 『言語情報学研究報告 3』, 東京外国語大学地域文化研究科.
- 須藤秀樹 2005: 「語彙アスペクトからみた現代漢語の動詞分類について」 亀山『言語情報学研究報告 9』, 東京外国語大学地域文化研究科.
- 鈴木直治 1956: 「中国語における位置の指示と強調のムードとの関係について」, 『中国語学』第 57 号.
- 王还 1957: 「说“在”」, 『中国语文』2 月号.
- 王还 1980: 「再说“在”」, 『语言教学与研究』第 3 期.
- 王学群 2004: 「“有着”再考」, 大東文化大学語学教育研究所成立 20 周年記念 現代中国語文法研究発表大会 7 月 3 日 発表レジュメ.
- 依藤醇 1992: 「連動式における“着 zhe”」, 『東京外国語大学論集』44.
- 郑懿德 1988: 「时间副词“在”的使用条件」, 中国语文杂志社编『语法研究和探索(四)』, 北京大学出版社.
- 朱継征 1998: 「中国語の進行相について “在”と“～着”の文法的使い分けと意味的分析を中心に」, 『中国語学』第 245 号.